

Q 2 : 「特別の教科 道徳」の評価を行う際の留意点について教えてほしい。

A : 学習指導要領「第3章 特別の教科 道徳」第3 指導計画の作成と内容の取り扱い4には、評価について、「児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。」とある。

また、「道徳科の評価の在り方に関する専門家会議」（文科省 H27.6 ～ H28.7）では、評価の基本的な方向性として、以下の5点が挙げられた。

- 数値による評価ではなく、記述式とすること
- 個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすること
- 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行うこと
- 学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること
- 調査書に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにすること

道徳科で養う道徳性は、児童生徒が将来いかに人間としてよりよく生きるか、いかに諸問題に適切に対応するかといった個人の問題に関わるものである。したがって、道徳科における評価については、どれだけ道徳的価値を理解したかなどの基準を設定することはふさわしくなく、個人内の成長の過程を重視すべきである。

以下に、評価に関する基本的な考え方や評価の際の留意点・具体例等について述べる。

1 道徳科に関する評価の基本的な考え方

- (1) 個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすることや他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として記述式で行うことが求められる。

※「大きくくりなまとまりを踏まえた評価」とは・・・

道徳科の評価は、一つ一つの内容項目ごとに、その内容項目についてどのくらい理解したかということの評価するものではない。道徳的価値について多面的・多角的に考えることができるようになったかや、道徳的価値を自分自身との関わりで深めようとしていたかといったことを、学期や学年など一定のまとまりの中で、道徳科の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取り評価するということを示したものである。なお、一定のまとまりの中で評価した結果として、特に顕著と認められる点が発揮された内容項目に係る授業について、評価の中で触れるということは考えられる。

- (2) 学習活動において児童生徒が道徳的価値やそれらに関わる諸事象について他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視することが重要である。

※「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか」とは・・・

例えば、道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしていることや、自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしていること、複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしていることなどを発言や感想文、質問紙の記述等から見取るという方法が考えられる。

※「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか」とは・・・

例えば、読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしていることに着目したり、現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目したりするという視点が考えられる。また、道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解をさらに深めているかや、道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしているかという視点も考えられる。

2 評価の際の留意点及び方法の具体例

(1) 留意点

評価を実施するに当たっては、学習評価の妥当性、信頼性を担保することが重要である。そして、評価は個々の教師が、個人として行うのではなく、校長及び道徳教育推進教師のリーダーシップの下、学校として組織的・計画的に取り組むことが必要である。

具体的には、

- ・学年ごとに評価のために集める資料や評価方法等を明確にしておくこと
- ・評価結果について教師間で検討し評価の視点などについて共通理解を図ること
- ・評価に関する実践事例を蓄積し共有すること

などが考えられる。

さらに、記録物や実演自体を評価するのではなく、学習過程を通じていかに道徳的価値の理解を深めようとしていたか、自分との関わりで考えたかなどの成長の様子を見取るためのものであることにも留意することが必要である。

(2) 評価方法

道徳科における学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握するに当たっては、児童生徒の学習の様子を見取るための様々な方法が考えられる。

(具体例)

- ・授業観察による評価 : 学習状況のありのままの姿を把握し、記録する。発言、挙手、視線、うなずきなど、チェックリストを用意し、授業中または授業後心に残る姿について記録する。
- ・パフォーマンス評価 : 役割演技などの場面で子供が発言した内容を記録する。演技後の後の話合いでの発言も記録する。
- ・ポートフォリオ評価 : ワークシート、感想、手紙など子供が書いたものを保存し、子供の思考の変化や心の成長を見取り、記録する。
- ・自己評価による評価 : 子供が自らを振り返り、道徳的価値の理解の深まり、考え方の変化、友達からの学び、教材や主人公への思いなど、自由に書いたものを保存し、記録する。
- ・相互評価による評価 : ワークシートや感想を互いに読み合い、友達がコメントやメッセージとして書いたものを記録する。
- ・アンケートによる評価 : 授業終了の際に、学習態度についての項目にかかわって、子供が記号などで回答したものを記録する。

(聖徳大学大学院 吉本恒幸教授の「平成29年度新任道徳教育推進教師等研修会」における講話資料から引用)

【参考資料】

- | | |
|-------------------------|-----------|
| ・現職教育資料 第472-1号 第472-2号 | H30.1 県教委 |
| ・栃木県小・中学校新教育課程説明会資料 | H28.8 県教委 |
| ・「学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」 | H27.7 文科省 |